



樹里安だより

ジュリアン

2011年1月
Vol. 28



— 安行の名所 (その15) —

戸塚中台公園 《川口市戸塚3丁目》

ミズナラ、ケヤキ、アカシデなどの自然林に囲まれた高台にあり、川口市で最も良好な公園と評価されている。私有地だった畑とその周りの林32684㎡を市が買い取り、平成5年3月に設置した。公園に入ると、入口はモダンな時計台や動物などをテーマにした鋳物製のモニュメントで飾られ、中心には広さ6790㎡の芝生広場がある。芝生に沿って約40mのせせらぎ水路とその奥にじゃぶじゃぶ池が設けられ、芝生の周りにはジャングルジムや滑り台など多数の遊具が並んでいる。また、斜面林を利用した遊歩道やテニスコートも併設されている。

暑い盛りは、せせらぎや池は子供たちの人気を集め、芝生広場は冬でも暖かい日には家族連れや母子のグループが集まり、円座をつかって弁当を広げたり、おしゃべりしたりして楽しんでいる。高台にあった薬師堂は公園造成の際、近くの西光院に移されたが、林の中を登る男坂、女坂の参道は、そのまま残されており、古い時代の面影もとどめている。

真乗院の

コウヤマキ

(川口市石神1253)

山門を入ると本堂前庭の左側に3本の古木がそびえ、見る人を圧倒している。川口市指定の天然記念物。コウヤマキと同市指定の保存樹木のカヤ、それにシイの木が、4.5mの近距離に枝が重なり合うように立ち並び、真乗院の創建とともに歴史を刻んできた。

同寺は、旧日光御成道に沿った場所にある真言宗智山派の寺院で、開山は不詳だが、中興開山は尊雄和尚とされ、その和尚は「新編武蔵風土記稿」には「寛永5年(1628年)3月入寂」と記されている。本尊は不動明王で、足立百不動尊札所、足立板東観音札所、新四国霊場としての由緒もあり、享保13年(1728年)吉宗将軍の日光社参の際には、小休所となったと「徳川実記」に残されている。また明治より昭和初期にかけて旧尋常小学校の分教場として開放していた時期もあったという。

3本の古木のうち、北側奥にあるコウヤマキは昭和41年3月、市の天然記念物に指定された。幹回り(目通り)4.5m、根回り7.8m、樹高18mとされているが、それは指定当時の記録だから現在ではもっと大きくなり、樹高も20mを越えるとみられる。

コウヤマキの東側にあるカヤは平成12年9月、市の保存樹木の指定を受けた。幹回り2.6m、樹高18mだが、今では幹回りも樹高もコウヤマキに劣らぬ大きさである。南側手前にはシイが根を下ろしている。落雷か強風に痛めつけられたのか、幹は高さ7~8mのところで折れてなくなり、残っている幹も中心部までえぐり取られ痛々しい姿をとどめているが、折れた幹の下から枝を大きく伸ばし樹勢はなお旺盛だ。樹齢は不詳だが、3本とも「植栽木」と記録されており、木の形態から200~300年は超えていると関係者はみている。

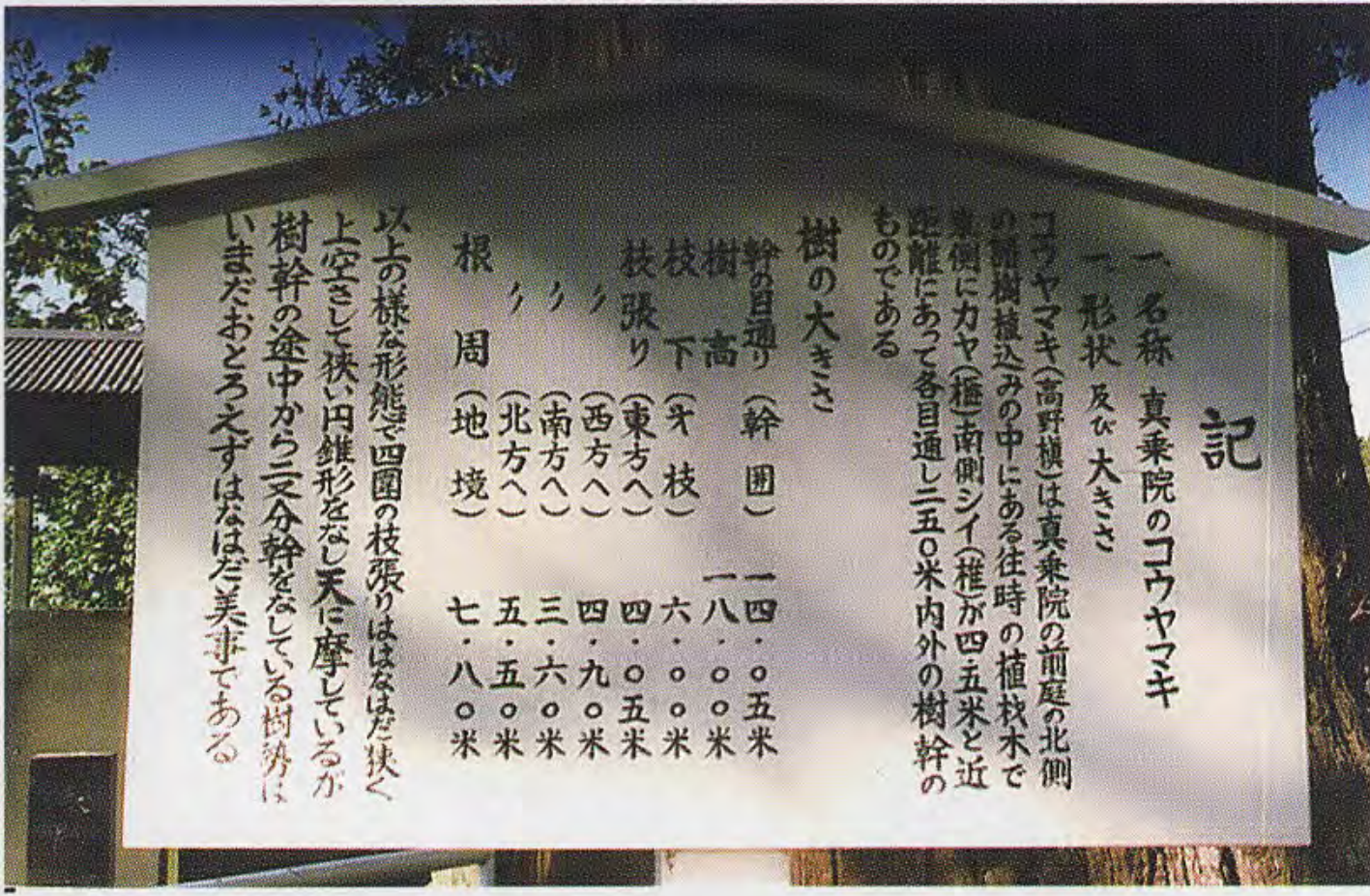
コウヤマキの説明板には「樹勢はいまだおとろえずはなはだ美事である」と記載されているが、コウヤマキだけでなく、3本とも大空に向かって枝葉を大きく伸ばしており、風雨に耐え抜いてきた姿は荘厳で、見る人に畏敬の念を抱かせている。

地域の人たちは「3本の古木が寄り添うようにそろっているのは、ここだけだろう。お寺さんだけでなく地域の財産として、大事に見守っていきたい」と話している。



コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* コウヤマキ科

- 別名 ホンマキ
- 分布 九州、四国、本州南・中部
- 高さ 30m～40m、幹周り 3 m以上になる常緑針葉高木
- 用途 和洋風庭園樹・景観樹・神社仏閣への植栽など
- 陰樹だが壮年後は陽樹
- 幼時の生長は遅いが壮年後は速い。萌芽力は少ない。刈り込みに弱い。移植は困難。強風に弱い。水湿地に耐える。
- 樹形は円錐形。長く下枝を保ち、老樹でも樹形をくずさない。
- 雌雄同株で、開花は 4 月
- 世界三大造園木（コウヤマキ、ヒマラヤスギ、ナンヨウスギ）の一つ。
- 平成18年、悠仁親王のお印となる。



真乗院の樹木

天然記念物

樹 種	科 名	指定年月日	所 在	幹 周	樹 高
コウヤマキ	コウヤマキ科	S41.3	石神1253	4.5m	18.0m

保存樹木

樹 種	科 名	指定年月日	指定番号	所 在	幹 周	樹 高
カ ヤ	イチイ科	H12.9.1	4	石神1253	2.6m	18.0m

古 木

樹 種	科 名	所 在
シ イ	ブナ科	石神1253



香りの良さと純白の花に魅力

川口市の花 テッポウユリ

花言葉は「純潔」。その言葉通り、純白で香り高い花である。

沖縄などの南西諸島原産のユリ科の球根多年草で、草丈は50cm～1mに伸び、6月中・下旬、茎の先端に長さ15cmほどのラッパ状の花を数個つける。本州へはかなり古い時代に渡ってきて、観賞用として盛んに使われてきた。

ユリは有史以前から人とのつながりが深く、特にキリスト教では白ユリを純潔の象徴である聖花として、聖母マリアに捧げる習慣があった。イースター、クリスマス、結婚式、葬式などの儀式になくてはならない花とされてきた。このユリは、もともと地中海沿岸産のマドンナリリーであったが、日本のテッポウユリが紹介されてからは、強健で美しさが買われ、マドンナリリーに代わってイースターリリー名でテッポウユリが使われるようになったという。

日本でも「古事記」や「日本書記」にまつわる物語があり、奈良市には古事記に由来する「ゆり祭」を開催している神社もある。また江戸時代には、観賞用よりも食用としての栽培が盛んになり、薬草としても利用されたが、テッポウユリが普及されると花の白さと香りが受けて、もっぱら切り花、活け花として育てられた。

川口市でテッポウユリ栽培に取り組んだのは戦後まもなく。花物の需要が伸びるにつれて品不足とされるテッポウユリ栽培で産地化を図ろうと、50戸余りの生産農家が栽培に乗り出した。球根を約3ヶ月かけて開花寸前まで育て、9月下旬から翌年春にかけて順次出荷していく促成栽培である。市場への出荷も順調に伸び、昭和41年には「市の花」に制定されるなど一大産地として発展した。

順調だった栽培も、平成年間に入って陰りを見せ始めた。温室で使う重油などの燃料の度重なる値上がりや、景気低迷による需要の落ち込みで採算割れから脱落する生産者が相次いだ。残っている生産者も苦境に立たされているのが現状だ。だが、枝物と鉢物などとの生産の組み合わせにより経営の維持を図りながら、「市の花の名誉にかけて途絶えることのないよう栽培を守り続けたい。景気が回復すれば、採算もとれるようになる」と期待しながら、一家総出で栽培と出荷の作業に励んでいる。



テッポウユリ

【科名：ユリ科ユリ属 学名：Lilium longiflorum】

- 多年生草本球根植物
- 原産地：南西諸島・九州
- 開花期：5月～6月
- 特 徴：50cm～1m程度に生長し、楕円形で長い葉をつけ葉脈は水平方向に入る。

ラッパ状の白い花を横向きに咲かせる。雌雄同花である。

テッポウユリは花の形が長いことから昔の鉄砲に見立てたこととされる。

昭和42年（1967年）の埼玉国体を機会に、市内で盛んに生産・出荷されていたことから川口市の花に昭和41年1月27日に制定された。

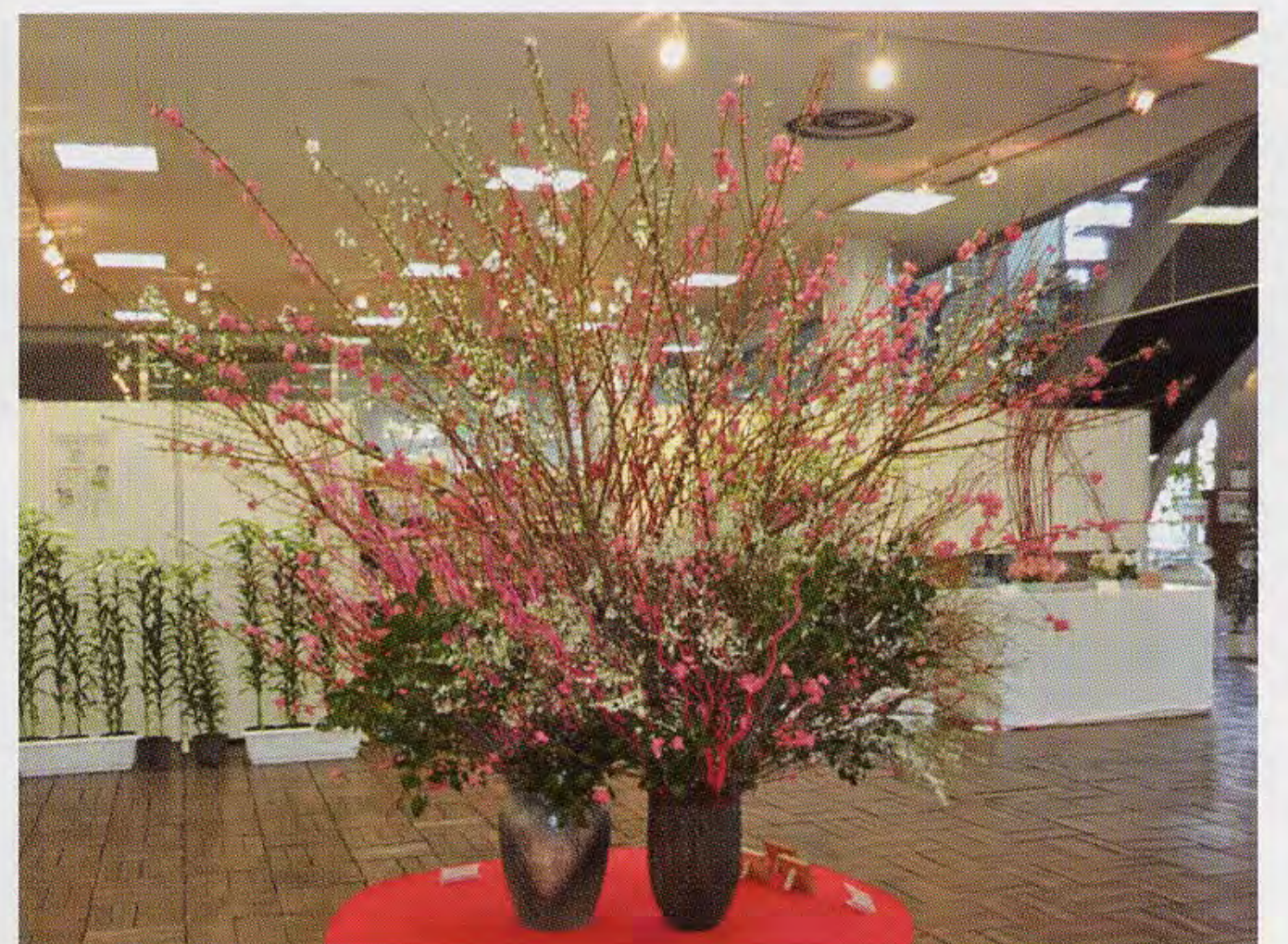
《栽培方法》

（用 途）	庭植え・鉢・コンテナ・切り花
（土）	赤玉土7、腐葉土3の割合
（植え付け）	10～11月に球根を植え付ける
（植え替え）	庭植えは3年に1度、鉢植えは毎年
（肥料）	花後に緩効性肥料
（水やり）	表土が乾いたらたっぷりと与える
（場 所）	日当たりの良い場所



【川口市花の文化展】

毎年、2月下旬に川口市内の花・緑の総合的な紹介、宣伝を図るため、川口緑化センターと川口総合文化センターで開催しています。地元で促成栽培されたテッポウユリの展示を行います。



帯 祝 い

イチョウ

イチョウ科 イチョウ属
(落葉樹・高木・陽樹・雌雄異株)



老木になると「乳柱」と呼ばれる気根を生じるものがあり、古来、「乳の神」として、そうした巨木をまつり、母乳が豊かに出ることを祈った。わが国では木に木霊を感じるこのような樹霊信仰が各地で見られた。その伝統を継ぐ意味でも、また、イチョウの旺盛な萌芽力に重ねて、元気な赤ちゃんの誕生を願うには最適。秋の鮮やかな黄葉は周囲を明るくするし、実のギンナンは栄養価の高い事でも有名。

1. 特 徴

開花期 4 月、結実期 10 月。実は雌株につく。生長は早い。

品種にはフイリイチョウなどがある。

2. 植えるときの注意

時期：11～12月・2～3月

場所：日なたで土層が厚く水はけのよい場所を選ぶ。

3. 管理のポイント

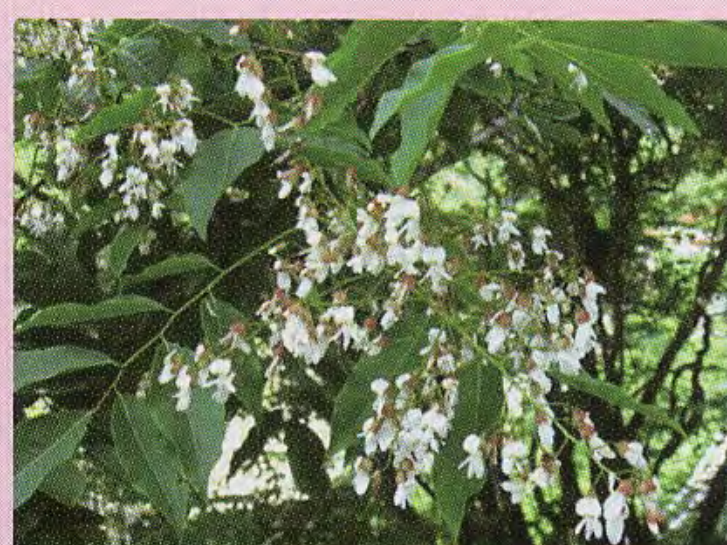
自然に樹形が整うのでせん定の必要はほとんどない。寒肥を与えるとよい。

《他の木》



ザクロ

落葉広葉樹
高木・陽樹



エンジュ

落葉広葉樹
高木・陽樹



ナンテン

常緑広葉樹
低木・中庸樹～陰樹



カキ

落葉広葉樹
高木・陽樹



川口緑化センターの主なイベント結果報告

1 第70回記念 春の大花植木まつり ・一輪草まつり

平成22年4月17日(土)～18日(日)

昭和50年の秋から開始された植木まつり。毎年春・秋2回開催され、70回目を迎えることから記念事業として開催いたしました。記念式典、記念植樹、川口市内及び群馬県沼田物産販売、埼玉県内ご当地アイスまつり、各種模擬店販売などを実施しました。また、東川口駅から無料送迎バスを運行し利便向上を図り多くの来場者で賑わいました。



2 東京インターナショナル フラワー&ガーデンショー2010

平成22年4月17日(土)～25日(日)

東京都立川市の国営昭和記念公園において開催された「東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー2010」に市内緑化団体と共同で出展しました。コンテストにおいてはシティーガーデンの部で金賞を受賞いたしました。植木の里・安行の造園技術をPRしました。



3 アサガオ・ほおずき市

平成22年7月10日(土)

「川口駅東口駅前キュポ・ラ広場」において「アサガオ・ほおずき市」を開催しました。アサガオ・ほおずきの他に釣り忍や川口市内産の野菜を販売したいへん好評でした。



4 第19回 川口安行の花・緑と 物産展示即売会

平成22年10月6日(水)～8日(金)

「新宿駅西口広場イベントコーナー」において、「第19回 川口安行の花・緑と物産展示即売会」を開催しました。植木・盆栽・鉢花の展示即売・見本庭園の展示・各種園芸デモンストレーションを実施しました。都市部において植木の里・安行のPRを図りました。



